

■公共施設の適正配置の基本方針等

本市が策定した「泉大津市公共施設適正配置基本方針」及び「泉大津市公共施設適正配置基本計画」では、公共施設の適正配置について、以下の基本理念（目指す姿）と5つの基本方針を掲げて、取組みを進めている。

【基本理念(めざす姿)】

誰もが利用しやすく誰もが集える公共施設

公共施設の複合化や多機能化を進め、質の高い公共サービスを提供するとともに、市民の交流、災害時の拠点として柔軟に対応できる公共施設を再生、再配置する。

基本方針1
複合化・多機能化※1

基本方針2
長寿命化・維持保全※2

基本方針3
サービスの維持・向上

基本方針4
施設の総量 15%以上削減

基本方針5
共通理解と体制の構築

※1 複合化・多機能化とは

複数の施設を1つの建物に集約して利用することや、1つの空間を利用時間で分けて、異なる用途として利用することを指す。

※2 長寿命化・維持保全とは

建物を将来にわたり長く使い続けるために、建物の性能等をあげるための対策（長寿命化）や、建物の原状回復をするための対策（維持保全）のことを指す。

■市民ニーズ

○市民アンケート

本アンケート調査は、(仮称)泉大津市教育施設再配置計画の策定にあたり、既存の教育施設の現状や課題、市民ニーズなどについて、広く市民の意見、意向をうかがい、計画に反映していくことを目的に実施。

◇16歳以上の市民を対象に2,000人を無作為抽出

◇回答数725件、回答率36.3%

【特記事項】

- 教育施設の整備費用については、9割以上の方が深刻であると感じている。
- 南北公民館、勤労青少年ホームの場所を知らない人が約半数となっている。
- 南北公民館、勤労青少年ホームともに約8割の人が利用していない。
- 生涯学習施設の利用意向について、「利用したいと思わない」が約6割を占めている。

○グループインタビュー

アンケート調査による定量的な意見集約に加えて、社会教育施設利用者や児童・生徒に対して、施設の利用実態や地域交流ゾーンについての具体的な意見等を聴取することを目的に実施。

◇南北公民館・勤労青少年ホーム利用者、市民活動支援団体、小中学生を対象

【施設に関する主な意見】

- ・バリアフリー化（エレベーター）
- ・施設・設備の老朽化

○ワークショップ

既存の教育施設の現状や課題、市民ニーズ、今後の方向性などについて、様々な立場の人が集うことによって意見交換を行い、計画策定に活かすことを目的に実施。

◇社会教育施設利用者・市民活動団体・学校関係者・自治会関係者・公募市民を対象

【施設に関する主な意見】

- 老朽化が進んでおり、防災面で不安がある
- バリアフリーに対応できていないことが問題
- トイレが古く狭い / 水漏れを起こすことがある
- リノベーションは困難であり、場合によっては建替えが必要
- WiFi等の設備が不十分
- 予約せずに使えるサロンのような場所は必要
- 会議室等は、大きさが柔軟に変えられると便利

- 安全性の確保等への対応のため公民館の建替え
- 入りやすい、明るい雰囲気・空間づくり
- 予約しなくても使える、サードプレイス(第三の居場所)としてのサロンの空間
- わかりやすい諸室配置、動線計画
- 便利な1階への利用頻度の高い諸室の配置
- 市民の生涯学習活動に必要な設備の充実
- 利用者が使えるWiFi・電源コンセントの設置

ワークショップで導き出された未来の学びの場として思い描く姿

【コンセプト】

泉大津市全域が、学びのキャンパス

～身近な居場所としての複数の「学び場」と、
出会いや発見のある交流拠点としての「学び場」で構成

地域交流ゾーンと連携し、ハブとなる

1つの新しい拠点施設を整備する

地域交流ゾーンと新たな拠点施設を整備することで、市民の身近な活動場所を確保しつつ、**老朽化等の課題のある南北公民館、勤労青少年ホームを集約化し**、利用しやすい諸室構成・設備、安全性の確保、バリアフリー対応、管理運営の効率化を実現する

★期待する効果

今の利用者の利用環境が改善されつつ、新たな利用者が
増え、市民の生涯学習活動が促進される

地域交流ゾーン

新しい拠点施設

その他
既存施設

施設整備のあり方

- ・適切な立地場所の選定
- ・公民館等の機能の切れ目がない、整備スケジュールの設定
- ・計画・設計にあたっての市民意見の反映